

平成25年3月期 第3四半期決算について

平成25年2月

西京銀行

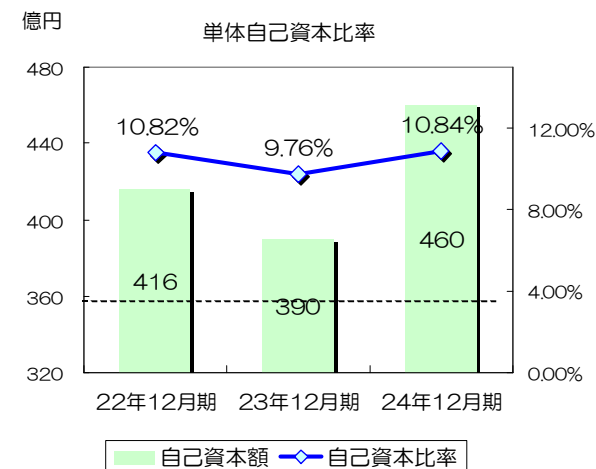
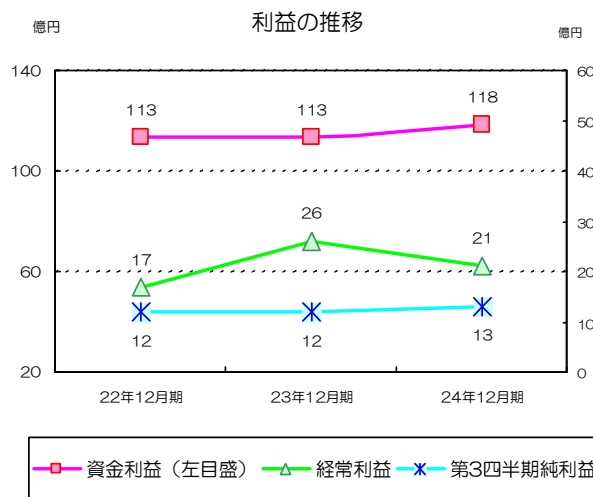
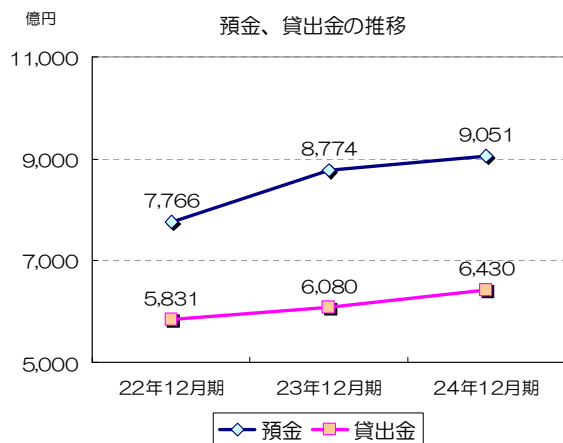
●業績ハイライト（単体）	……	2
●損益の状況	……	3
●資金利益の状況	……	4
●貸出金の状況	……	5
●預金と預り資産の状況	……	6
●有価証券運用	……	7
●不良債権の状況	……	8
●自己資本比率の状況	……	9
●中計期間中の数値目標と経過実績	……	10

業績ハイライト（単体）



当行では、平成24年4月にスタートいたしました中期経営計画「一人でも多くのお客さまに『さすが西京のサービス』を（計画期間：平成24年4月～平成27年3月）」に基づき各施策へ積極的に取組んだ結果、預貸金の順調な増加により、経常収益は前年同期比21百万円増加して172億1百万円となりました。また、第3四半期純利益は前年同期比43百万円増加し13億4百万円となりました。

- 預金残高は、個人預金を中心に、前年同期比227億円増加し、9,051億円（前年+3.1%）となりました。貸出金残高は、個人ローンを中心に350億円増加し、6,430億円（前年+5.7%）となりました。
- 預貸金の順調な伸びを背景に、銀行の本業である資金利益は前年同期比5億15百万円増加し、118億円（前年+4.4%）となりました。
- 単体自己資本比率は、前中間期比1.08ポイント増加して10.84%（前年比+11%）となりました。



損益の状況



【損益状況(単体)】

(単位:百万円)

	24年12月期		23年12月期
		23年12月期比	
経常収益	17,201	21	17,179
業務粗利益	11,670	△ 756	12,427
資金利益	11,869	515	11,354
役務取引等利益	△ 647	△ 516	△ 131
その他業務利益 (うち国債等債券損益)	448 (574)	△ 754 (△ 594)	1,203 (1,169)
経費(除く臨時処理分)	8,051	118	7,933
実質業務純益	3,618	△ 874	4,493
コア業務純益	(3,044)	(△ 279)	(3,323)
①一般貸倒引当金繰入額	△ 429	△ 429	-
業務純益	4,048	△ 445	4,493
臨時損益	△ 1,870	△ 68	△ 1,802
②不良債権処理額	565	565	-
(貸倒償却引当費用①+②)	(136)	(136)	(-)
株式等関係損益(3勘定尻)	△ 1,063	760	△ 1,824
経常利益	2,177	△ 513	2,691
特別損益	△ 63	14	△ 78
うち減損損失	9	△ 35	45
税引前四半期純利益	2,113	△ 499	2,612
法人税、住民税及び事業税	769	△ 86	855
法人税等調整額	39	△ 456	496
四半期純利益	1,304	43	1,261

(注)1. 実質業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額
2. コア業務純益 = 実質業務純益 - 国債等債券損益

経常収益

◆経常収益は、前年同期比2.1百万円増加し17.2億1百万円となりました。

・資金利益

個人ローンを中心とした中小企業等向け貸出金の順調な伸びにより、前年同期比5億15百万円増加しました。

・役務取引等利益

個人ローン増加に伴う支払保証料の増加により、5億16百万円減少しました。

・その他業務利益

国債等債券損益の減少を主要因に、7億54百万円減少しました。

経常利益

・貸倒引当金

一般貸倒引当金は4億29百万円の戻入となりましたが、個別貸倒引当金は5億65百万円の繰入となり、純額で1億36百万円の繰入となりました。

・株式等関係損益

株式売却損の減少を主要因に7億60百万円増加しました。

四半期純利益

◆四半期純利益は前年同期比4.3百万円増加し、13億4百万円となりました。

資金利益の状況



◆銀行の本業である資金利益は順調に推移しております。

資金利益額の内訳(貸出、有価証券、預金)推移

(単位:百万円)

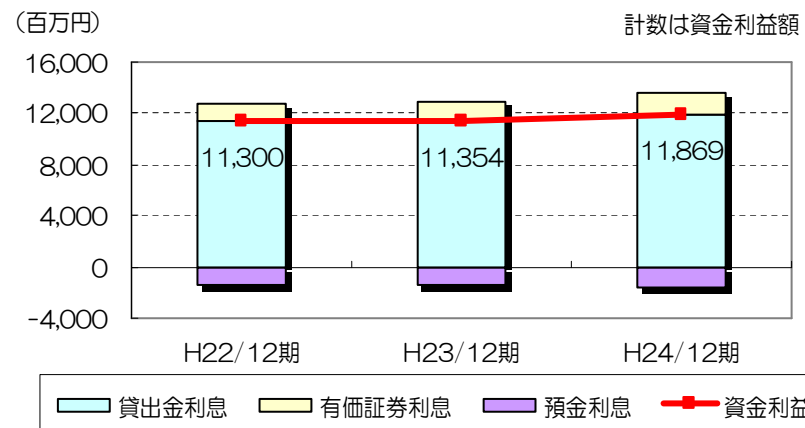
	H22/12期	H23/12期	H24/12期
資金利益	11,300	11,354	11,869
うち貸出金利息	11,325	11,325	11,941
うち有価証券利息	1,435	1,575	1,697
うち預金利息	1,400	1,512	1,667

資金利益の利回り内訳(貸出、有価証券、預金)推移

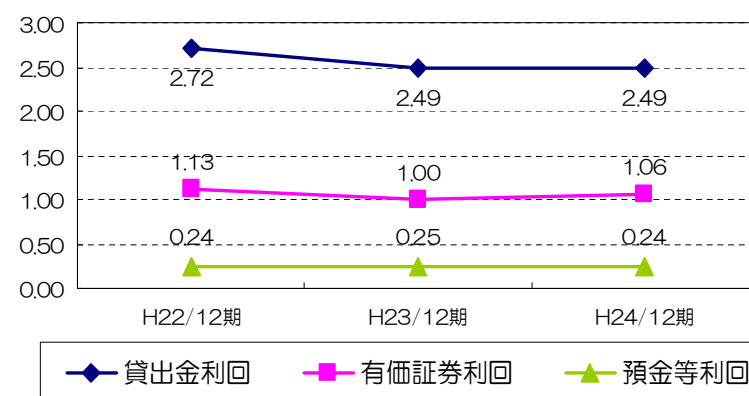
(単位:%)

	H22/12期	H23/12期	H24/12期
貸出金利回	2.72	2.49	2.49
有価証券利回	1.13	1.00	1.06
預金等利回	0.24	0.25	0.24

資金利益額の内訳推移



資金利益の利回り推移

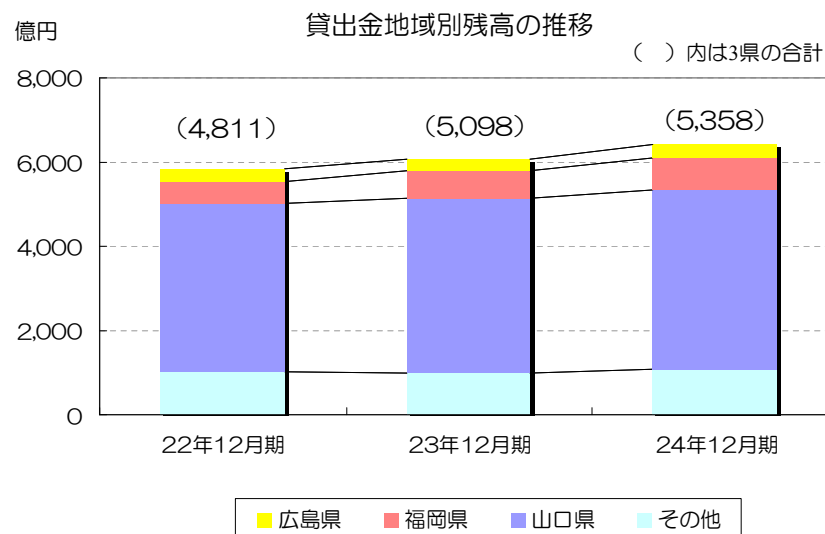


貸出金の状況 ～地域とともに～

- ◆貸出金は、中小企業等、個人向け貸出に積極的に取組み、前年同期比350億円増加しました。
- ◆当行では、地域の皆さまからお預りした大切な預金を、資金を必要とされる地域の事業者さまや個人のお客さまに、借入金としてお使い頂く「**資金の地域内循環**」を進めております。今後も地元である山口県、福岡県、広島県を中心に積極的な地域内循環を進める方針です。
- ◆**山口県・福岡県・広島県3県合計の貸出金残高は、5,358億円となり、前年同期比260億円増加して総貸出金の83.3%を占めています。**

《地域別貸出金残高の推移》 (単位: 億円)

	22年12月期	23年12月期	22/12比	24年12月期
貸出金	5,831	6,080	249	6,430
山口県	3,983	4,179	196	4,284
福岡県	546	635	89	739
広島県	282	283	1	335
3県合計	4,811	5,098	287	5,358
3県の比率	82.5%	83.8%		83.3%
その他	1,020	981	-39	1,071

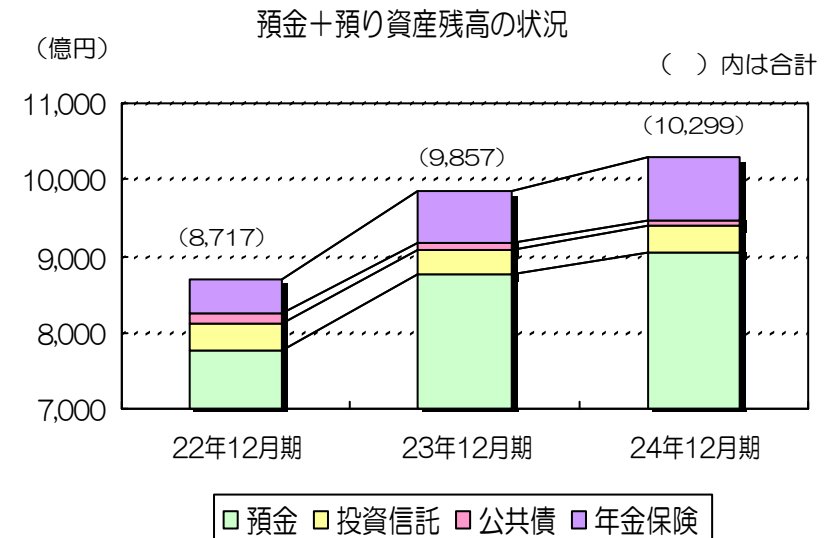


預金と預り資産の状況

- ◆預金については、「岩国錦帯橋空港開港記念定期預金」や外貨預金キャンペーン等がご好評をいただき、残高は前年同期比277億円増加しました。中期経営計画の目標でもあります「預金量1兆円」に向けて、預金量は順調に推移しております。
- ◆また、地域のお客さまの多様化する資産運用ニーズにお応えするため、県内外12ヶ所のマネープラザを拠点に、専門スタッフがきめ細かく対応することで、預り資産残高は、前年同期比168億円増加しました。
- ◆預金と預り資産を合計した残高は、1兆299億円となりました。

《預金、預り資産残高の推移》 (単位: 億円)

期末残高	22/12期	23/12期	22/12比	24/12期	23/12比
預金+預り資産	8,717	9,857	1,139	10,299	441
預金	7,766	8,774	1,007	9,051	277
預り資産	946	1,079	132	1,248	168
投信	366	318	△ 47	343	24
公共債	120	93	△ 27	65	△ 27
個人年金保険等	459	667	207	839	172



有価証券運用



◆有価証券評価損については、重要な経営課題として計画的な圧縮に取組み、**評価損を一掃し、当四半期では47億円の評価益に転じました。**

《有価証券残高》 (単位: 億円)

期末残高	22年12月期	23年12月期	22/12比	24年12月期	23/12比
有価証券	1,733	2,264	531	1,951	△ 313
国債	1,079	1,341	261	918	△ 423
地方債	2	109	107	240	130
社債	100	258	157	244	△ 13
株式	121	91	△ 29	125	33
外国証券	207	227	20	205	△ 21
その他証券	221	235	13	216	△ 19

《有価証券利回り》 (単位: %)

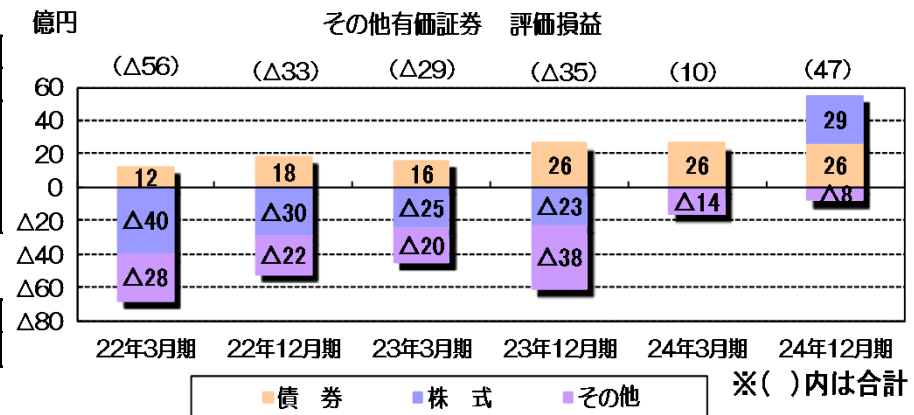
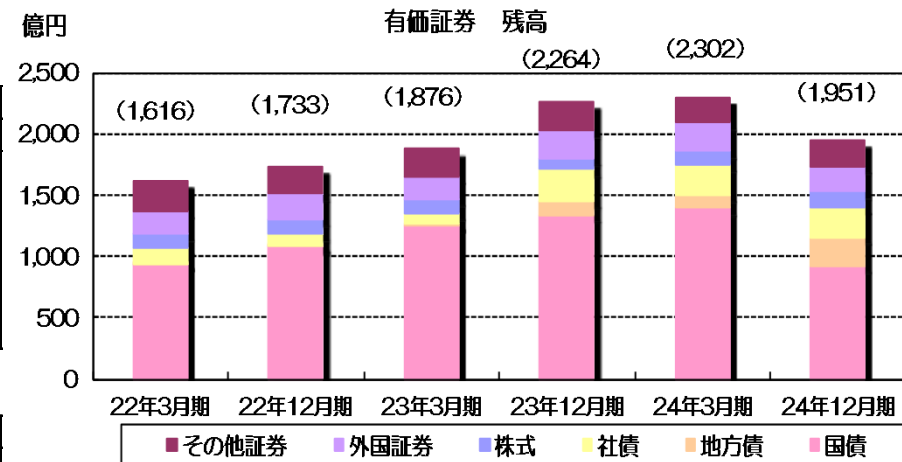
	22年12月期	23年12月期	22/12比	24年12月期	23/12比
有価証券	1.13	1.00	△ 0.13	1.06	0.06

《その他有価証券評価損益》 (単位: 億円)

	22年12月期	23年12月期	22/12比	24年12月期	23/12比
有価証券	△ 33	△ 35	△ 1	47	82
株式	△ 30	△ 23	6	29	53
債券	18	26	8	26	0
外国証券	0	0	0	2	1
その他	△ 22	△ 38	△ 16	△ 10	27

《債券デュレーション》 (単位: 年)

	22年12月期	23年12月期	22/12比	24年12月期	23/12比
債券	5.73年	5.75年	0.02年	5.32年	△ 0.42年



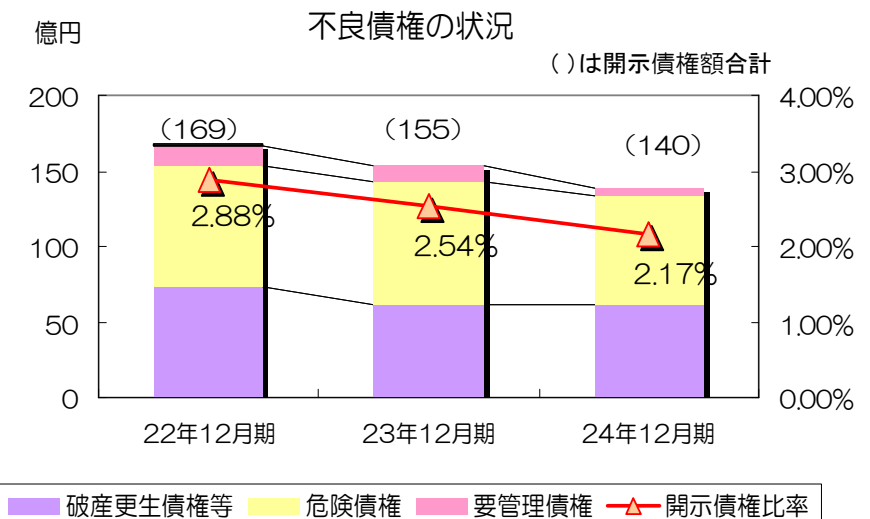
※()内は合計

不良債権の状況

- ◆「さいきょう再生支援プロジェクト」を立ち上げ、中小企業の金融円滑化に基づくコンサルティング機能の強化に積極的に取り組んだ結果、金融再生法開示債権は、前年同期比15億円減少して140億円となりました。
- ◆金融再生法基準での開示債権比率は、前年同期比0.37ポイント低下し、2.17%となりました。

《金融再生法開示債権の推移》 (単位:億円、%)

	22年12月期	23年12月期	22/12比	24年12月期	23/12比
破産更生債権等	74	61	△13	61	△0
危険債権	79	82	2	72	△10
要管理債権	14	11	△3	6	△4
開示債権合計	169	155	△13	140	△15
正常債権	5,698	5,957	259	6,321	363
開示債権比率(%)	2.88	2.54	△0.34	2.17	△0.37
貸倒引当金	39	37	△2	21	△16
担保・保証等	117	105	△12	106	1
保全率(%)	92.80	91.58	△1.22	90.66	△0.92

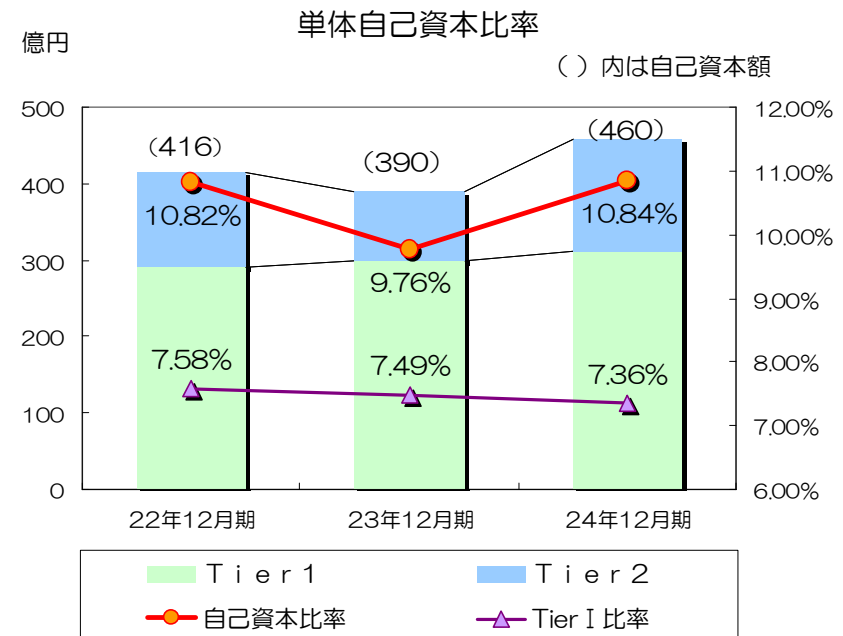


自己資本比率の推移

- ◆単体自己資本比率（国内基準）は、前年同期比1.08ポイント増加し、10.84%となりました。
- ◆普通株式や内部留保としてコアとなる自己資本（=Tier1）は、前年同期比13億円増加しており、今後も利益確保による積上げを行う方針です。

《単体自己資本比率の推移》 (単位: 億円、%)

	22年12月期	23年12月期	22/12比	24年12月期	23/12比
自己資本	416	390	△ 26	460	69
Tier1	291	299	7	312	13
Tier2	124	90	△ 33	147	56
負債性資本	90	60	△ 30	121	61
リスクアセット	3,850	4,001	150	4,247	245
自己資本比率 (%)	10.82	9.76	△ 1.06	10.84	1.08
Tier1比率 (%)	7.58	7.49	△ 0.09	7.36	△ 0.13



中計期間中（平成24年4月～平成27年3月）の計数目標と経過実績



- ◆平成24年4月からの3年間の中期経営計画期間において、「3つの挑戦」と計数目標を定めております。
- ◆実績は順調に推移しており、特に、②「預金のお客さま純増3万件以上」、③「新規融資事業所開拓3千件以上」については、当四半期で平成25年3月期の目標を前倒して達成しております。

項目		24/12実績	25/3期	26/3期	27/3期
		『3つの挑戦』	① 預金量1兆円以上	9,051億円	9,200億円
② 預金のお客さま純増3万件以上	1万5,916件		1万件	2万件	3万件
③ 新規融資事業所開拓3千件以上	1,245先		1,000件	2,000件	3,000件
計数目標	① コア業務純益	30億円	45億円	50億円	55億円
	② 自己資本比率	10.84%	9.50%	9.50%	9.50%

※コア業務純益 … 業務純益 - (国債等債券関係損益、一般貸倒引当金繰入、信託勘定償却)

※業務純益 … (資金運用収支 + 役務取引等収支 + その他業務収支) - 一般貸倒引当金繰入額 - 経費